

第八十六回帝國議會 農林中央金庫法中改正法律案委員會會議錄(速記)第六回

付託議案

農林中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第二六號)

昭和二十年二月五日(月曜日)午後二時十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 高橋熊次郎君

理事 赤城 宗徳君 理事 愛野時一郎君

理事 小笠原八十美君 理事 恒松於菟二君

吉植 庄亮君 馬岡 次郎君

小高長三郎君 唐橋 重政君

木村寅太郎君 黑澤 西藏君

小山邦太郎君 齋藤 憲三君

土屋 源市君 野村嘉久馬君

平野 力三君 松浦 伊平君

前川 正一君 村上 國吉君

森川 仙太郎君 山口左右平君

山口馬城次君 吉田 賢一君

出席政府委員左ノ如シ

農商參事官 長野 高一君

農商省總務局長 楠見 義男君

農商省農政局長 西村 彰一君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

農林中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○高橋委員長 是ヨリ開會致シマス、

此ノ場合豫テ保留サレテ居リマス事項

ニ對シ政府委員ノ御答辯ガアリマス

○西村政府委員 此ノ前甘諸ノ増産計

畫ノ内容ノ中デ御尋ネガゴザイマシタ

ガ、此ノ際甘諸ノ増産ハ最モ緊要ナル

問題デアリマスノデ、其ノ増産計畫、

豫算ノ關係、加工施設ノ關係、其ノ他

其ノ徹底シナケレバナラナイヤウナ事

項等ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス

第一ニ増産ノ作付ノ計畫デアリマス

ガ、今同ノ増産計畫ニ於キマシテハ、

作付面積五十四萬八千六百六十町歩ト

云フ作付面積ヲ確保シマシテ、之ニ

依リマシテ二十七億二千二百萬貫ノ生産

ヲ確保シヨウト云フデアリマス、其

ノ内容ト致シマシテハ、普通畑ニ於キ

マシテ四十二萬九千五百町歩ノ作付ヲ

確保致シマシテ、之ニ依ツテ二十二億

五千二百萬貫ノ生産ヲ擧ゲヨウト云フ

ノデアリマス、昭和十九年度ノ甘諸ノ作付

ノ實績ハ三十四萬町歩デアリマシテ、

之ヲ四十二萬九千町歩ニ上ゲマスコト

ニハ、綜合作付計畫ヲ實行致シマシテ、

ソレハ必要ナル重要食糧作物ヲ植エ

テ居リマスノデ、甘諸ニシテ一舉ニ之

ヲ四十二萬九千町歩ニスルト云フコト

ニ付テハ相當ノ困難ガアツタノデアリ

マスガ、今年ハ特ニ陸稻ニ付キマシテ、

陸稻十一萬町歩ノ内約三萬四千町歩ノ

モノヲ、之ヲ諸ニ轉換スルト云フコト

ニシ、又小豆ノ栽培面積八萬九千町歩

ノ内一萬二千八百町歩ト云フモノヲ、

之ヲ陸稻ニ轉換スルコトニ致シタノデア

リマス、陸稻モ勿論必要デアリ、小

豆モ必要デアリマスルガ、反當「カ

ロリ」其ノ他ノ收量カラ申シマスル

ナラバ、陸稻ヲ甘諸ニ轉換致シマシタ

方ガ、遙カニ收量ガ多イ、農家ガ供出ヲ

シテ居リマスルモノガ大量三十五、六

萬石位アルノデアリマスガ、其ノ供出

分ニ相當スルモノガ丁度三萬四千町歩

デ作ラレテ居リマス、之ヲ諸ニ轉換ヲ

シ、反當五、六百萬貫ノ收量ヲ擧ゲタ

方ガ陸稻一反歩ニ付キ一石一斗前後ノ

モノヨリモ、國家ノ見テ有利デアル

ト云フヤウナコトデ實行ヲ致シタノデア

リマス、尙ホ小豆ニ付キマシテモ、

是ガ農民ノ食糧トシテ重要ナモノデア

リマシテ、之ヲ轉換シマスレバソレダ

ケ食糧ノ穴ガ開ク譯デアリマスガ、是

ハ甘諸畑ノ中ニ小豆ノ間作等ヲヤリ、

更ニ周圍作等ヲ獎勵スルコトニ依リマ

シテ、小豆ノ收量ヲ減ラサナイデ諸ノ

増産ヲ圖ラウ、斯様ナコトニ致シタノ

デアリマス、此ノ普通畑ノ面積ニ付テ

農林省デ色々獎勵ヲ致シマシタ優良ナ

ル品種農林一號乃至四號、沖繩百號、

護國等何レモ澱粉質ガ多ク收量ガ多イ

ノデアリマスカラ、此ノ種諸ノ配付、

計畫ノ三種苗ヲ作ルコトニ依リマシテ、

反當二十五萬貫平均收量ヲ是非トモ擧

ルコトニ致シマシテ、二十二億五千二

百萬貫ノ生産ヲ確保シヨウト云フノデア

リマス、尙ホ此ノ外ニ土地改良ニ依

リマスル開畑ノ内諸ニ向ケルモノ五千

九百町歩バカリ、又農地開發營團ガ開

畑致シマシテ、マダ入植ノ済ンデ居ラ

ナイ所ノモノ三千四百町歩ト云フモノ

ヲ諸ニ向ケル、又荒蕪地、伐木跡地等

ハ何レモ色々作物ノ利用サレテ居リ

マスケレドモ、此ノ中四萬八千二百八

十町歩ト云フモノヲ特ニ諸ニ轉換シヨ

ウト云フコトニシ、又競馬場、學校ノ

庭其ノ他ノ空地利用一萬八千町歩ト云

フモノヲ諸ニ轉換スルコトニシ、尙ホ

三年乃至三年ニ必ズ早魃ガアルト云フ

ヤウナ水田ニハ、寧ろ諸ヲ計畫ノニ植

エタ方ガ宜イト云フヤウナコトカラ、

二千三百四十五町歩ト云フモノヲ全國

ニ互ツテ調ベマシテ、之ヲ諸ニ轉換

スルコトニ致シタノデアリマス、

尙ホ此ノ他ニ軍用地等ニ於キマシ

テ、此ノ際諸ノ作付可能ナルモノヲ軍

ノ協力ニ依リマシテ三萬六千町歩程ノ

モノヲ諸ノ作付ニ向ケル、斯様ナコト

ニ致シマシテ、之ニ依ツテ五十四萬八

千六百六十町歩ノ面積ヲ確保スルコト

ニ致シマシタ、是ハ既ニ經濟部長ノ會

議ヲ開キ、府縣細カニ折衝ヲ致シマ

シテ、各府縣ガ之ヲ必ズ完遂スルト云

フコトデ面積ヲ引受ケ、各町村ニ向ツ

テソレハ町村ノ當事者ト連絡ヲ取ツ

テ、是ダケノ面積ハ必ズ完遂スルト云

フ所ニ進ンデ居リマスルノデ、今種諸

其ノ他ノ關係ヲ準備致シマシテ、雪解

ケヲ待ツテ苗作りニ進進シテ此ノ計畫

ノ完遂ニ努メヨウ、斯様ナコトニ致シ

テ居ルノデアリマス

次ニ勞力ノ動員關係ノコトニ付テ御

尋ネガゴザイマシタガ、勞務ノ關係ハ

農村全般ニ非常ニ逼迫シテ居リマスガ、

甘諸ノ是ダケノ増産計畫ヲ進メマス

ルニ付テハ、相當ノ勞力ガ要ルノデア

リマス、殊ニ荒蕪地、空地利用等ヲ開

墾ヲ致シマスルニハ相當ナ勞力ガ要ル

ノデアリマシテ、假ニ延人員ニ致シマ

シテモ、是等ノ土地ノ開墾ダケデ千九

百萬人位ノ勞力ガ新タニ要ルコトニナ

ル譯デアリマス、尙又諸ノ苗作りカラ

作付、收穫、殊ニ加工處理ニナリマス、

實ニ龐大ナル勞力ガ新シク要ルコトニ

ナルノデアリマス、是等ニ付テハ、從

來ノ農家ニ一層能率ヲ擧ゲテ貰フコト

ガ第一ニ必要デアリマスケレドモ、更

ニ度々申上ゲマシタ甲種、乙種ノ食糧

増産隊ナリ、又學徒ノ動員ナリ、又歸

農家ノ甘諸ノ作付ニ對スル協力ナリ、

又特ニ國民學校ノ生徒等、計畫ノ之

ヲ動カシマシテ、勞力ノ方面ニ於テ是

等ノ増産計畫ノ完遂ニ支障ヲ來サナイ

ヤウニト云フコトヲ、ソレハ計畫ヲ

進メ、ソレ等ノ豫算ノ措置ヲ講ジテ居

ルヤウナ次第デゴザイマス

次ニ處理加工ノ施設ニ付テノ御尋ネ

デゴザイマスガ、昭和十九年度ノ生産

實績ハ、豫想收穫高デ大體十二、三億萬

貫デアリマス、是ガ二十七億萬貫ニ相

成ルコトニナリマス、相當大キナ數

量デアリマス、而モ之ヲ急速ニ處理加

工スルコトガ諸ニ付テハ特ニ必要デア

リマスノデ、其ノ輸送ナリ、處理加工

ニ付テハ、一段ノ努力ヲシナケレバナ

ラスノデアリマスガ、從來諸ハ生ノ儘

配給ヲシテ食糧ニ供シテ居ルモノガ三

億乃至四億萬貫、ソレカラ切干トシテ

生産セラレテ、是ガ澱粉又ハ「アルコー

ル」等ニ使ハレテ居ツタモノガ三億

萬貫内外ト云フコトデアツタノデゴザ

イマスガ、是等ガ今同ハ厩六ニ殖エ

ルコトニ相成ルノデアリマス、ソレデ食

糧事情等ニ鑑ミマシテ、第一ニ諸ノ早

掘計畫ヲ計畫ノ進メマシテ、九月カ

ラ十月ノ初メニ掛ケテ特ニ早ク太

所ノ品種ヲ獎勵ヲ致シマシテ、之ヲ早掘

リニシテ、之ヲ「アルコー」ニ向ケル

場合モアリ、又都市ノ食糧、蔬菜ノ方ニ

向ケルモノモ、計畫ノニ相當積極ノ進

メテ參リタイト考ヘテ居ルノデアリマ

ス、之ニ付テ早掘リシタ爲ニ收量が少クナツテ、價格關係ニ於テ農家が損ヲ來スト云フコトニ付テハ、前ニモ申シマシタヤウニ價格ニ付テ特別ノ措置ヲ講ズルコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス

尙ホ切干ニスルモノデアリマスガ、切干ハ今後非常ニ大キナ數量ニナリマスノデ、從來切干ノ機械が大體十萬臺位アルト云フ豫想デアアルノデアリマスガ、此ノ際新タニ十萬臺位ノ切干ノ平切ニシマス所ノ機械ヲ町村農業會等ニ廣ク配付スルコトニ致シマシテ、切干ヲ大ニ獎勵シテ行ク考ヘデアリマス、尙ホ切干ニ致シマシテ之ヲ乾燥スル設備デゴザイマスガ、一千貫ノ切干ヲ作ルト致シマシテ、之ヲ兩ニ干スト致シマシテモ四、五百枚ノ兩ニ干サナケレバナラヌコトニ相成ルノデアリマシテ、是等ノ簡單ナ「バラック」ノヤウナモノデ棚造リニシテ乾燥スルト云フコト、國民學校等ヲ利用スルト云フコトニ付テ、是等ノ乾燥設備ヲ廣ク町村部落ニ設ケルコトニ致シマシテ、目下ノ所デハ五十萬臺位ノ簡單ナ乾燥設備ヲ方々ニ設ケヨウト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス

尙ホ次ニ澱粉ノコトデアリマスガ、從來ノ澱粉設備ノ外ニ、今回ハ摺込澱粉ト申シマスガ、粗澱粉ヲ造ル設備ヲ農業會等ニ廣ク設ケテ賣ヒマシテ、之ニ依ツテ粗澱粉カラ「アルコール」ノ方ニ轉換モ出來ルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、從來ノ澱粉工場ノ中ニ約百位ノモノヲ、更ニ摺込澱粉ノ設備ニ擴充サセルコトニ致シマシテ、其ノ外ニ六百工場位ノ摺込澱粉ノ工場ヲ全國ニ設ケマシテ、處理加工ヲ進メテ參リタイト考ヘテ居ルノデアリマス、要スルニ切干、摺込澱粉等ハ系統農業會等

ヲ中心ニシテ、諸畑ノ真中ニ切干ノ乾燥設備ヲ、摺込澱粉ノ工場ヲ設ケルト云フヤウナ風ニ進メテ行カナレバ、處理加工ガ急速ニハ完途ガ出來ナイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、尙又「アルコール」工場等ノ關係ニ於キマシテモ、從來酒造業者トノ關係上、近畿地方ニ「アルコール」ノ工場ハ比較的多イノデアリマスガ、關東地方ナリ、或ハ九州地方ニハ「アルコール」工場ガ少イノデアリマス、是モ全國的ニ「アルコー

ル」工場ヲ地方ニ増設ヲ致シマシテ、是等ヲ摺込、切干、場合ニ依レバ生ノモノモ「アルコール」工場ニ於テ處理ノ出來ルヤウニ、立地的ノ立場ヲ十分ニ考ヘルコトニ致シタ次第デアリマス 尙ホ豫算ノ關係ニ付テハ、大體御承知ノコトト思フノデアリマスガ、從來甘藷、馬鈴薯ノ生産獎勵ノ爲ノ豫算ガ、從來ノ經費トシテ千二百三十萬圓程アリマシテ、是ハ馬鈴薯ニ付キマシテハ種ヲ取り、又内地ノ高冷地ニ於テ特ニ種馬鈴薯ヲ作ルヤウナコトニ相當ナ經費ガ使ハレテ居ッタノデアリマス、又薩摩芋ニ付キマシテ優良種苗ヲ作ル爲ニ、特設苗圃ヲ作ルト云フヤウナコト、又共同苗圃ヲ作ツテ苗ノ配付ヲスル、斯ウ云フヤウナコトヲ考ヘテ居ル譯デアリマシテ、是等ノ經費ガ此ノ千二百三十萬圓ノ中心ニナツテ居ッタノデアリマス、又農業團體ノ助成ナリ、地方ノ府縣ニ甘藷ノ獎勵ノ爲ノ判任官ヲ七人程置イテ居ッタノデアリマスガ、今回ハ是ダケノ諸ノ増産ヲ進メルコトニナリマスノデ、昭和十九年度ノ追加豫算三千九百六十七萬圓ノ經費ヲ要求シ、昭和二十年度ニ於テ七千五百五十九萬圓ノ經費ヲ要求致シマシテ、合計一億千五百萬圓ノ甘藷ノ増産ノ爲ノ

經費ガ要求セラレテ居ル譯デアリマス、其ノ内容、開墾ノ方面ニ非常ナ勞費ガ掛リマスノデ、開墾ニ特ニ助成ヲ重ク致シマシテ、七千七百九十萬圓程ハ開墾ノ助成ノ經費デアリマシテ、從來土地改良等モ六割ノ助成デアリマスガ、甘藷ニ付テハ八割ノ助成ト云フコトニ致シマシテ、早期ニ開墾ヲヤリ、諸ノ作付ヲ進メヨウト云フノデアリマス、此ノ開墾ハ簡易開墾等モ含メマシテ、簡易開墾ニ依リマシタリ、兎ニ角土地ヲ擴ゲテ早急ニ諸ノ作付ヲスルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス

次ニ苗ノ増産ノ施設、特設苗圃ヤ共同苗圃ニ依リマシテ苗ヲ作ルト云フ經費ガ約二千萬圓程計上セラレテ居リマシ、又新シク作付ヲスル場合ニ於テ、苗ヲ購入スルノ對シテ無償苗ヲ配付スルト云フ經費モ千四百萬圓程含マシテ居ルノデアリマス、此ノ外新シク作付所ニハ、作付獎勵金ト云フヤウナモノモ含マレテ居ルノデアリマス、尙ホ是ダケノ増産計畫ヲ進メルノニ付キマシテハ、其ノ苗ヲ作付スル所ノ技術的ノ關係ニ付テ、全國的ニ之ヲ滲透サセル必要ガアリマスノデ、諸ノ主

ニ作ツテ居リマス所ノ六千七百町村ニ付テ、一町村平均三人ノ篤農家其ノ他ノ技術者ヲ囑託員トシテ配付スルコトニシテ、是等ノ經費ガ二百一萬圓程アルノデアリマス、尙ホ地方公共團體ニ甘藷ノ爲ノ主任官ガ、從來判任官デアリマシタモノヲ、此ノ際四十人程高等官ヲ主ナル諸ノ府縣ニ置クコトニ致シテ居ルノデアリマス、一億千五百萬圓ト云フモノハ此ノ諸ノ増産ノ爲ノ直接ノ豫算デアリマスガ、此ノ外ニ勞務ノ關係デ甲種、乙種ノ増産隊等ノ活動促進ノ爲ノ費用ガ四千三百九十二萬圓モ

別ニアリマシテ、總計致シマスナラバ一億五千八百萬圓ガ甘藷ノ増産ノ經費ニナル譯デアリマス、尙ホ處理加工ノコトナリ、又農村ニ於テ簡易貯藏ヲヤツテ居リマスコトヲ更ニ促進スルト云フヤウナ經費ハ、是ハ事業ノ促進ニ伴ヒマシテ、早急ニ豫備金等デ以テ大藏省ニ交渉シテ考ヘナケレバナラヌト思ツテ居ルノデアリマシテ、一億五千八百萬圓ノ經費ハ直接増産ニ要スル經費デアアルコトヲ御承知願ヒタイノデアリマス

次ニ關係官廳、其ノ運動機關ト云フヤウナコトノ御尋ネガアリマシタガ、今回ノ此ノ増産計畫ハ全ク劃期的ノコトデアツテ、特ニ食糧ノ爲メノミデナクシテ、「アルコール」ノ増産、航空機燃料増産ノ爲デアリマスノデ、軍需省、陸海軍省トハ勿論非常ニ密接ナル關係ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、一

緒ニ立案計畫ヲ進メテ居ルヤウナ譯デアリマスシ、又勞務ノ關係ハ厚生省、學校ノ學徒動員、國民學校ノ動員等ニ付テハ文部省ノ關係モアリ、又諸ノ輸送其ノ他ノ關係ニナリマス運通省ノ關係モゴザイマシテ、是等ノ官廳トハ十分連絡ヲ取り、農商省ニ戰時食糧ノ増産協議會ト云フノガゴザイマシテ、是等ノ關係省ノ局長等ガソレレノ委員トナツテ、每週位ニ色々ナ協議ヲ進メテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ協議會ヲ中心トシテ色々ナ計畫ヲ進メタノデアリマスガ、今後實行ノ方法ト致シマシテハ、内閣等トモ連絡ヲ取りマシテ、農商省ノ中ニアリマス戰時食糧ノ増産推進本部ヲ中心ト致シマシテ、更ニ各方面ノ人ノ參加ヲ願ヒ、民間ノ人達ニモ御參加ヲ願ツテ、積極的ニ増産運動ヲ展開シ、而モ一元的ニ之ヲ展開ヲシ

テ各方面ノ協力ヲ得ルヤウニト云フヤウナコトヲ考ヘテ居ル譯デアリマス 次ニ諸ノ府縣町村ニ對スル割當方針ニ付テ御尋ネガゴザイマシタガ、先程モ申上ゲタヤウニ、今回ノコトハ地方ノ農村ノ事情、又農家ノ熱意ト云フモノヲ中心ト致シマシテ、從來諸ノ作付ヲ居リマシタ所ハ勿論、其ノ地方ノ實情ニ應ジテ諸ノ出來ル所ヲ中心トスルト云フコトニ致シマシテ、町村農業會等ノ熱意ヲ中心トシテ割當ツタノデアリマス、勿論中央ニ於テ是ダケヲ作ルト云フ計畫ヲ立テマシテ、府縣ト折衝ハ致シマスケレドモ、又町村自ラ色々計畫ヲ立テテ賣ツテ、更ニソレヲ一割ニ割當ツテ賣ツテ云フコトニハナリヤウニ、町村、府縣トハ十分ナ折衝ヲ相當ノ時間ヲ掛ケテヤリマシタノデアリマシテ、是ガ假ニモ天降リノ割當方針ニナラナイヤウニト云フコトハ、及バズナガラ十分注意ヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ開墾可能地ハ是ハ土地ノ狀況ニ依リマスノデ、府縣ノ實情ヲ昨

年ノ九月頃ニ報告ヲ取り、色々折衝ヲ致シマシテ、開墾可能地モ選定ヲ致シタ譯デアリマス、斯様ニ致シマシテ二十七億萬貫ト云フコトニナリマス、全ク一縣デ一億萬貫以上ノ生産ヲ上ゲルト云フ縣ガ、例ヘバ關東ニ於テハ茨城、千葉、埼玉、靜岡ト云フヤウナモノガ何レモ一億萬貫ノ生産縣デアアル、九州ニ於テハ長崎、熊本、鹿兒島、沖繩ト云フヤウナ所デ、特ニ鹿兒島ノ如キハ二億數千萬貫ノ生産ヲ上ゲナケレバナラヌト云フコトニ相成ルノデアリマシテ、一億萬貫ノ諸ト云フコトニナルト、是ハ全ク大變ナコトニ相成ルノデアリマシ、今回ノ増産計畫ハ國家ノ緊急要求

ニ基クノデアリマスケレドモ、其ノ完
遂ト云フコトハ中々大キナ問題デアリマ
スルノデ、及バズナガラ私共モ努力ヲ致
スノデアリマスガ、各方面ノ協力ヲ特ニ
切望スル次第デアリマス

尙ホ馬鈴薯ニ付テ申シマス、馬鈴
薯ハ本年ノ春馬鈴薯ニ付テ、既ニ作付
ノ割當ヲ昨年ノ八月ニ致シタデノマリ
マシテ、二十六萬九千町歩ノ馬鈴薯ノ
作付割當ヲ致シマシテ、之ニ依ツテ八
億六千萬貫ノ生産ヲ上ゲヨウト致シテ
居ルノデアリマスガ、尙ホ秋馬鈴薯ト云
フモノガ種ニスル場合デモ、又食用ニ
スル場合ニ於テモ非常ニ有效デアリマ
スノデ、更ニ是ト別ニ一萬町歩ノ秋馬鈴
薯ノ作付ノ計畫ヲ進メマシテ、之ニ依
ツテ三千萬貫近クノ收量ヲ上ゲタイ
ト云フヤウナコトヲ考ヘテ居ル譯デアリ
マス、以上甚ダ簡單デゴザイマスルガ、
大體ノ甘藷、薯類ノ増産計畫ニ付テ申
上ゲタ譯デアリマス

高橋委員長 此ノ場合委員長カラ委
員ノ意向ヲ代表シテ、政府當局ニ對シ
一言要望ヲ致シテ置キマス、即チ委員
ノ質問中當局ヨリ善處スルト云フ答辯
ヲ得タル事項ハ、何レモ時局下重要農
産物生産増強ノ上ニ、寸刻ヲ爭フ重大
ナル影響ヲ及ボス緊切ナル問題デアリ
マスカラ、政府ニ於テ直チニ解決セラ
レルヤウ、一段ノ努力ヲ致サレンコト
ヲ要請シテ置タ次第デアリマス

○高橋委員長 是ヨリ農林中央金庫法
中改正法律案ヲ議題トシテ討論ニ付シ
マス——愛野時一郎君

○愛野委員 私ハ蠶蠶政治會ヲ代表致
シマシテ、本改正法案ニ贊成ノ意ヲ表
スルモノデアリマス、近時農村資金ノ

飛躍的ニ増強セル今日ニ於キマシテ、
系統金融機關タル中央農林金庫ノ機能
ヲ擴充シテ、更ニ系統團體ヲシテ利用セ
シムルノ途ヲ開クト共ニ、國家目的ト
スル事業方面ニマデ最高度ノ利用ヲセ
シムルコトハ、極メテ時宜ヲ得タ必要ナ
ルコト信ジマス、以上ノ趣旨ニ基キ、
本法改正案ハ極メテ適當ナルモノト信
ジマス、御贊成ヲ御願ヒシタイト思ヒ
マス

○高橋委員長 討論ハ終局致シマシ
タ、是ヨリ採決ヲ致シマス、原案ニ贊
成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

〔總員起立〕

○高橋委員長 起立總員、仍テ本案ハ
原案ノ通り可決致シマシタ(拍手)是ニ
テ散會致シマス

午後二時四十二分散會

昭和二十年二月十日印刷

昭和二十年二月十一日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局